

天気予報で使われる言葉

気象庁が発表している天気予報は、毎日5時、11時、17時に発表します。また、天気が急変したときには随時修正して発表します。発表内容は、今日・明日・明後日の天気と風と波、明日までの6時間ごとの降水確率と最高・最低気温の予想です。天気予報で使われる言葉のうち天気の変化などを表す言葉について紹介します。

○時間の細分及び「時々」と「一時」

時刻	予報用語
00時から03時	未明
03時から06時	明け方
06時から09時	朝
09時から12時	昼前
12時から15時	昼過ぎ
15時から18時	夕方
18時から21時	夜のはじめ頃
21時から24時	夜遅く

「時々」と「一時」

ある現象が断続的に発生し、その発生した時間が予報期間の二分の一未満であるときは「時々」、現象が切れ間なく発生し、その時間が予報期間の四分の一未満であるときには「一時」と表します。

○降水確率

1ミリ以上の雨の降る確率を6時間毎に10%単位で発表します。例えば、18時から24時までの降水確率が20%というのは、その期間に1ミリ以上の雨の降る可能性が100回中20回あるという意味です。確率が高いと雨量が多くなるという意味ではありません。

○風向と風速

代表的な風向とその風の強さのことです。風向は風の吹いてくる方角で8方位、風の強さの表現と風速(10分間の平均)の関係は以下のとおりです。

表現	風速	人への影響
やや強く	10m/s以上15m/s未満	風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。
強く	15m/s以上20m/s未満	風に向かって歩けない。転倒する人も出る。
非常に強く	20m/s以上	しっかりと体を確保しないと転倒する。

気象庁ホームページでは最新の全国の天気予報をご覧いただけます。お出掛け、お仕事などに毎日発表しています天気予報をお役立てください。

問い合わせ先 網走地方気象台

(電話：0152-43-4349)



網走地方気象台ホームページ



気象庁ホームページ

「天気予報」はこちらから